

○議長（中村 敦） 次は、日程により、一般質問を行います。

今期定例会に一般質問の通告のありました議員は8人であります。質問件数は21件であります。

通告に従い、順次質問を許します。

質問順位1番、一つ、交流・にぎわいについて、二つ、公衆トイレの現状と今後について。

以上2件について、2番 大西將由議員。

〔2番 大西將由登壇〕

○2番（大西將由） 清新会の大西將由です。

通告に従い、一般質問させていただきます。

まずは質問の前に年初に発生した石川県能登地方を震源とした地震に関しまして、被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。また、犠牲になられた方々には心よりお悔やみ申し上げます。そして一日も早い復旧・復興をお祈りいたします。

また、報告になりますが、昨年9月の定例会におけるスポーツ振興に関する私の一般質問の中で、広島東洋カープの秋山翔吾選手の自主トレについて取り上げましたが、本年も1月5日に十数名の選手が下田入りし、1月14日まで自主トレを行いました。5日の夕方に松木市長はじめ山田教育長、平川生涯学習課長が歓迎の挨拶に行かれたことに選手たちは大変喜んで、感謝をされていたとのこと。そして、報道解禁日には撮影場所をグラウンドではなく下田の観光スポットやきれいな海をアピールするために、あえて田牛のサンドスキー場にしていただいたそうです。選手たちは来年も来たいと言葉を残し帰られたそうです。歓迎の御挨拶に赴いていただき本当に嬉しく思います。ありがとうございました。

それでは、本日は大きく分類しまして、交流・にぎわいについてと公衆トイレの現状と今後についての質問となります。

前回の一般質問においては、初めてということもあり質問までの話がかなり長くなりましたので、今後はできるだけ簡潔にしていきたいと思っております。答弁も同様をお願いいたします。

まずはじめに、交流・にぎわいについての質問から始めさせていただきます。

最近、市内に新たな小売店や飲食店などの店舗が複数できたり、酒類を製造するためのサテライトオフィスの進出、また、私と一緒に交流とにぎわいを生み出そうと活動している方たちがいるんですが、その方たちをはじめそれに関わる方たち、当局の御努力によってワーケーション事業の推進による下田市への本社移転予定の話があるなど、チャレンジや関係人口の拡大による新たなヒト・モノ・コトの流れが生まれてきているものと感じます。

第5次下田市総合計画の基本構想でも「新たな人の流れ、つながりの構築」ということをまちの将来像の4つの視点の一つとしてあげており、昨今のよい流れを継続しさらに加速させていく必要があると思っております。

そこで質問をさせていただきます。

これまでの店舗などの誘致に関する支援制度や取組そしてその実績や成果、また今後に向けてどのような改善、方策を考えているかについてお伺いをします。

次に、公衆トイレについての質問をさせていただきます。

下田に生まれ育った私としては、市内どの場所でトイレに行きたくなった場合でもその場所から近い公衆トイレが何となく分かりますが、観光で来られた方はなかなかそうはいきません。コンビニエンスストアやスーパーのトイレを借りる場合もあると思いますが、観光そしておもてなしに力を入れている下田市としては観光客やお年寄りに優しいまちとして何らかの方法で今以上に公衆トイレの場所を分かりやすくできないかと思っております。スマートフォンなどを使って「下田市公衆トイレ場所」と検索しますと幾つか表示されますが、地元にいる者でも少し分かりづらく感じました。

2月3日の伊豆新聞に静岡県データ活用推進課による賀茂地区では初めてとなるオープンデータの利活用に向けたワークショップが開かれ、下田高校の生徒など25人が参加してお勧めの飲食店やトイレの場所、インスタ映えするスポットなどを探して歩いたとの記事が掲載されていました。このオープンデータを積極的に有効活用することもできるのではないかと思います。

それと同時に、今までは考えたことはありませんでしたが、議員となった立場から下田には市が管理している公衆トイレがどれぐらいあるかと思い、内装・外装なども確認しながら思い出せる範囲で回ってみました。旧町内、田牛から白浜までの海岸線、稲梓から蓮台寺を經由して大賀茂まで30か所近くありました。その後、確認をしたところ建物保険に加入している物が約30か所、管理を委託しているものを含めると40か所近くあるとのことでした。

清掃に関しては基本的に週2回、夏の海水浴シーズンは海岸線は回数を多くし、地区に委託したりそれ以外の場所は職員の方が行っていると聞きました。数が多く清掃も大変ですがきれいにされており感謝しています。

ただ、そこで感じたこととして、せっかく清掃がされていても内装・外装の古さや汚れが目立つと清潔感が半減してしまうということが懸念されます。また、旧町内のトイレの内装についての懸念という点で、本市の有する歴史や景観との調和はどうかという視点に立つ

た場合、トイレのありさま、見た目ですとか素材ですとか、そういったものの統一性がないのではないか、観光に来られた人たちがまち歩きをしても同じような感想を持つのではないかと、このような懸念も私としては生じたところでございます。

そこで、質問させていただきます。

1つ目として、公衆トイレの周知やサインについて、現状と今後に向けてどのように考えているかについてお伺いをします。

2つ目として、新規に公衆トイレをつくる計画や要望があるかについてお伺いをします。

3つ目として、既存の公衆トイレの改修及び景観を意識した統一性についてどのように考えているかについてお伺いをします。

4つ目として、これは施設としてのトイレ整備からは外れますが、冒頭で言いました地震に関しましてトイレについては断水もあり、その対応については相当クローズアップされています。災害時のトイレ対策について現在、行政としてどのような初期対応を想定しているか、そして、それに向けてどのような具体的な対策を取っているかについてお伺いをします。

以上をもちまして私の趣旨質問とさせていただきます。

○議長（中村 敦） 当局の答弁を求めます。

産業振興課長。

○産業振興課長（糸賀 浩） 私からは、交流・にぎわいについての店舗等の誘致に関する支援の取組やその成果等についての御質問にお答え申し上げます。

当市では、令和4年度より空き店舗活用事業補助金を設け商工会議所と連携をし、空き店舗を活用し、下田で起業・創業を目指す方のサポート等を行ってまいりました。

実績としましては、令和4年度8件、令和5年度11件に補助金を交付し、合計19件の空き店舗の活用につながっております。企業の誘致という面では、令和3年度からサテライトオフィスの進出を促進するため補助金による支援を行っており、令和5年度までに2件の誘致につながっております。

これらの企業の方々は、市内イベント等に参画するなど積極的に地域に関わる活動も行っていただいております。また、これまでのワーケーション事業により市内外多くの企業の関わりや交流も生まれており、その結果として議員が御発言されました県外企業の当市への本社移転の計画にもつながったものと感じております。

今後につきましても、地域事業者の新たな事業展開の促進を目的とした産業人材育成事業や新たなチャレンジを支援する販路拡大支援事業等を継続し、交流機会の創出により関係人

口の拡大を図りつつ、当市への企業進出を促進してまいりたいと考えております。

私からは以上です。

○議長（中村 敦） 観光交流課長。

○観光交流課長（佐々木豊仁） 私からは、公衆トイレの現状と今後についてお答え申し上げます。

公衆トイレの周知等につきましては、観光協会が作成している紙ベースの観光マップにて周知をしております。今後につきましては、情報のデジタル化を進めていく中で、ホームページやスマートフォン等での情報提供など、より分かりやすい周知に努めてまいります。

続きまして、新規の公衆トイレをつくる計画や要望についてお答え申し上げます。

新規の公衆トイレにつきましては、吉佐美区より吉佐美大浜への設置要望をいただいております。今後、地元区と協議して規模等を検討してまいります。

続きまして、既存の公衆トイレの改修及び景観を意識した統一性についてお答え申し上げます。

現状、公衆トイレの改修予定はございませんが、景観につきましては、風景等との調和を図る衣装と材料を用いることや、安定感があるデザインとする配慮、加えて地域の公衆トイレは近傍の公衆トイレとの関連性を考慮し、デザインの統一を図ることが必要と考えております。今後、改修が必要となった際には、景観を担当する建設課等関係者と連携し、検討してまいります。

私からは以上でございます。

○議長（中村 敦） 防災安全課長。

○防災安全課長（土屋武義） 私からは、公衆トイレの現状と今後についての中で災害時のトイレ対策について現在、どのような対応を想定しているか。それに向けてどのような具体的な対策を取っているのかについてお答えいたします。

災害時での避難所のトイレの対応につきましては、断水も予想されることから水を使わずに排せつ物を処理できることを前提として、地区限定となりますが大型の非常用トイレといたしまして、マンホールトイレを白浜小学校と浜崎小学校に設置しております。また、移動設置が可能な既設洋式トイレを活用した使い捨て携帯トイレや組立て式トイレの備蓄を進めており、避難者の環境に配慮した対策を講じております。

私からは以上でございます。

○議長（中村 敦） 2番 大西將由君。

○2番（大西將由） ここからは一問一答でお願いします。

まず、交流・にぎわいについてですが、店舗、企業などの誘致、成果に関する内容は分かりました。ありがとうございました。

そこで、続けて質問させていただきますが、先ほどの答弁にもございましたが、今後はさらにワーケーションをはじめとする都市と地方、人と人との多様な関わりの創出、さらには少し大きな話にはなりますが、開国のまち下田としては、海外にも目を向けた施策展開など、新たなチャレンジがしやすい環境づくりが必要と考えますが、今後の方向性や事業展開についてどのように考えているか伺います。お願いします。

○議長（中村 敦） 産業振興課長。

○産業振興課長（糸賀 浩） 今後、多様な人とのさらなる創出、さらには海外にも目を向けた施策というようなことでお答え申し上げます。

昨年の12月に全国的なワーケーションの動向や世界的なリモートワークの状況などワーケーションを取り巻く環境の変化を学び、また、新たな受入れ体制や新規事業メニューを構築するため、市内の事業者やワーケーションの実践者を集めたワーケーションミーティングイベントというものを実施いたしました。

そのワークショップの中で、デジタルノマドと呼ばれる国際的リモートワーカーをターゲットとした新規ビジネスプランのアイデアが市内事業者の方から出るなど関心の高さがうかがえたところでございます。

また、新型コロナ感染拡大以降、世界的にテレワークが普及し、国内でもデジタルノマドの受入れについて新たな在留資格の創設に向けた動きも出てきております。こういった流れを受けまして世界といち早くつながった開国のまちである本市としましても、それらの動向に注視し、受け入れに係る施策の研究を進めていきたいと考えております。

また、新たなチャレンジをしやすい環境づくりというところでは、新たな事業展開や起業などがしやすくなるよう引き続き各種支援事業を展開していくとともに、商工会議所など関係団体と連携をさらに強化しまして、ワンチームで新たなチャレンジを支援していきたいと考えております。

以上でございます。

○議長（中村 敦） 2番 大西將由議員。

○2番（大西將由） ありがとうございます。ぜひとも、このよい流れを逃さぬように前回の一般質問でも述べましたが、会議、打合せで終わることなく、スケジュール、工程をしつ

かりと意識して取り組んでいただきたいと思います。よろしく申し上げます。

次に、公衆トイレについてですが、まず1つ目のトイレの周知についてですが、先ほどの答弁にもございました観光協会が作成している紙ベースのマップということで、これは私の記憶ですと下田ガイドマップだと思うんですが、非常に見やすく私は好きで、年度が替わると新しいものをいただいて毎回見てます。

ただ、その中の地図にはトイレの表記もあるんですが、やはり自分の位置が分からないと探すことが難しいと思います。ですので、今後、デジタル化を進めていく中で、例えばスマートフォンでQRコードを読み取るとイベントや飲食店などの情報などと同様に最寄りのトイレも簡単な操作で調べられるようにしていただきたいと思います。

また、それとともにこれからは下田市を訪れる外国人旅行者に対しての周知対策もさらに必要となると思いますが、それについてはどのように考えているかについてお伺いをします。お願いします。

○議長（中村 敦） 観光交流課長。

○観光交流課長（佐々木豊仁） 観光交流課では来年度、多言語化に対応している観光協会のホームページがあるんですが、そちらにアクセスできるQRコード付きのポスターやチラシ等を作成し、伊豆急下田駅や観光施設、宿泊施設等市内各所に配布して国内外問わず観光客がスマートフォンで観光情報などをすぐに取得できる事業を考えております。

その中で今後、公衆トイレの案内も含めて利用者が簡単に調べられるよう、マップ等整備の検討をしてインバウンドも含めた観光客の受入れ体制の強化を図っていきたいと考えております。

以上です。

○議長（中村 敦） 2番 大西將由議員。

○2番（大西將由） 分かりました。ありがとうございます。ぜひとも早めをお願いします。

次に、2つ目の新規のトイレについてですが、吉佐美大浜のトイレについては以前、楠山議員からも要望がありましたし、今後、サーフタウン構想を進めていく中でも必要となると思います。ですので、ぜひとも早めをお願いします。

また、そのほかについては今のところ計画はないということですが、懸念されることがあります。それは黒船祭です。昨年の黒船祭は想像以上に人出があったこともあり、旧町内のトイレに行列ができ、トイレトペーパーの補充が間に合わないなど大変だったと聞いています。

本年も5月17、18、19日と3日間開催予定です。昨年以上の人出を期待するわけですが、それに対してのトイレ対策をどのように考えているかについてお伺いをします。お願いします。

○議長（中村 敦） 観光交流課長。

○観光交流課長（佐々木豊仁） 吉佐美大浜のトイレにつきましてはサーフタウン構想と関連する計画との整合性を図りながら地元区と協議を進めてまいります。

また、黒船祭でのトイレ不足につきましては、町なかでイベントを開催している開国市実行委員会や市民の方より御意見をいただいております。来年度につきましては、開国市実行委員会で今現在の市内商店などに期間中のトイレの借用のお願いをしているとのことです。

また、事務局としましても必要に応じて仮設トイレを設置したいと考えております。また、プログラム等マップにおいても、分かりやすい表記を検討しつつ、清掃等をしっかりして市民や観光客の満足度向上に取り組んでいきたいと考えております。

以上です。

○議長（中村 敦） 2番 大西將由議員。

○2番（大西將由） 分かりました。ありがとうございます。ぜひとも観光で来られた方が困らないようにお願いいたします。

次に、3つ目の既存の公衆トイレの改修及び経過については、説明のとおり分かりました。

また、管理に関しては、利用目的に応じて観光交流課や建設課、環境対策課というように分かれているようですが、旧町内のトイレに絞って考えた場合、課は関係なく観光に来られた人たちがまち歩きをしたときにすぐにトイレだと分かる表記やまた、きれいだと思えるつくりにしていただきたいです。

やはり、トイレがきれいですとまち全体の印象もよくなると思います。今後、少しずつでもいいのでお願いいたします。

また、改修について実は私一番気になっていることとしては、公園のトイレです。その当時はやりだったと思いますが、大体が円柱型の男女別の区別がない小さなつくりになっています。特に、男性は用を足していると外から丸見えです。見る側も見られる側もいい気分はしません。女性も使いづらいのではないかと思います。

そこで再度質問させていただきますが、この公園トイレの今後についてどのように考えているかについてお伺いをします。お願いします。

○議長（中村 敦） 建設課長。

○建設課長（平井孝一） 建設課が所管する都市公園というんですが、こちらは14か所あります。そのうちトイレを設置している公園は、7か所ございまして、このうち中村の中央公園など5か所につきましては、住区基幹公園、俗に言う児童公園と呼ばれております。そちらは昭和40年代から50年度中頃までに建設されまして、その後、大きな改修だとか建て替え等を行っておりません。そういった中、大西議員の御指摘のとおり男女区分もされていなくて、安全性、使いやすさというところから時代に合っておらず、課題があると私もちょっと認識しているところです。

また、利用者からも建て替え等を望む声が私のほうにもございます。このようなトイレの改修等に向けまして、今後、補助金などの活用を踏まえまして計画的に進めていきたいと今担当のほうでちょっと考えているところでございます。

以上です。

○議長（中村 敦） 市長。

○市長（松木正一郎） 議員のトイレの話は実はその後に災害の問題にも関係していると思うんですけれども、公園という場所は平時においては子供たちが遊んだり、お母さん方が子供を遊ばせたりいろいろ使い道があるんですけれども、いざというそのとき、つまり被災時においてそういった非常的な利用が可能となるそういう空間になります。したがって、そうした場所でのトイレというのは、非常に平時だけでなく、有効になるというふうに考えられます。こういうことも踏まえて、そのトイレの在り方と公園の在り方をトータルで考える必要がある。つまり、それが今般やろうとしてる緑の基本計画の全体像、そういうのを検討する中でも、私どもとしてはしっかりと詰めてまいりたいと思いますのでまたその節には御指導いただければと思います。

以上でございます。

○議長（中村 敦） 2番 大西將由議員。

○2番（大西將由） ありがとうございます。ぜひとも早めに計画をしていただきたいです。お願いいたします。

最後になりますが、災害時のトイレ対策について答弁ありがとうございました。もしかしたら災害は起きないかもしれない。逆に今起きるかもしれない。こればかりは分かりませんが、備えをしっかりとっておけばいざというときに慌てずに済むと思います。

特に、飲料水や食料品などと同じようにトイレに関しても重要になると思いますので、引き続き備蓄を進めていただくことを要望しまして、今回の私の質問を終わりにさせていただきます。



きます。

○議長（中村 敦） これをもって2番 大西將由議員の一般質問を終わります。